

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500662		
法人名	株式会社 サニーオーク		
事業所名	グループホーム 侑良の里		
所在地	奈良県橿原市木原町323-1		
自己評価作成日	平成21年12月7日	評価結果市町村受理日	平成22年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自主防災に参加し、グループホームの理解を深めて頂き災害時の地域との相互関係を深めている。婦人会の方の協力を得て、毎年炊き出し祭を行い事業所の出来ることを伝えている。「あなたを大切にいたします。」を事業所の理念にスタッフ自身が入居したい、自分の親を入居させたいと思える施設作りに取り組んでいる。又看取りの際は、「その人らしさ」を最後まで尊重する様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、大和三山の一つ耳成山の麓に鉄骨二階建て(2ユニット)で新設開所されています。周辺は自然が多く残り、穏やかに過ごせる環境にあります。ホーム内は明るく、広くゆとりを持って過ごせるスペースが確保されています。入居者もこの環境の中で、趣味や特技等を活かしながら自分のリズム・ペースで生活されています。ホームも地域社会との交流を積極的に持たれ、地域に溶け込んだ運営がなされています。なお、職員も「尊厳の確保」を基本とする運営理念を良く認識され、入居者支援に努められています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成21年12月18日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時、又毎月のカンファレンスの中で職員全員に浸透させている。「あなたを大切にいたします」を事業所独自の理念として玄関に掲げ、意味を理解してもらい尊厳を大切にしている	尊厳の確保と地域社会との関わりを重視した理念があり、見易い場所に簡潔に墨書された理念が掲出され、職員への浸透・実践に活かす取り組みが見られます。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に門を開放しているので、散歩や外気浴等の際、話しかけられ易く畑の作物の差し入れ等を気軽に持って来て下さる。又、通学路である事もあり「トイレ貸して下さい」と入って来られる	地域行事への参加や緊急時の避難場所として提供・小学生の体験学習の受け入れ・炊き出し祭りの開催等による地域との関わりを大切にしたい取り組みがなされています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区内の小学校の教育の場に、施設を開放している。又「子供安全の町」に名乗りをあげ地域の子供達の安全に協力している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回は必ず開催し、民生委員の方が地域の行事との関わりを取り持ってくれている。実施指導等の報告も運営推進会議の場で行い、家族様の要望を聴きながらステップアップに繋げている。	幅広いメンバーで構成された運営推進会議を定期的開催し、入居者の状況報告はもとより、サービスの質を高めるための意見交換が積極的になされ、開陳された意見等を運営に活かす取り組みがなされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回、介護相談員の方に入って頂き入居者の方と話している。報告会等、市の方参加で行なっている。運営推進会議は、市・包括・民生委員の方の参加のもと行なっている。	毎月の介護相談員の受け入れと共に、入居者情報の交換・運営上の課題相談等に適宜訪問され行政との連携強化に努められています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等を活用しカンファレンスや勉強会で身体拘束について説明している。施設内は自由に行き来してもらい散歩等の要望も時間に関わらず出かけてもらっている	身体拘束による弊害をすべての職員が正しく理解し、実践されています。なお、徹底のための研修も行われています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや勉強会に虐待について説明したり、折に触れその都度「言葉の虐待、介護の放棄」など話取り組んでいる。管理者として常に視点を持ち、日頃から注意を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられ、月一回のカフェインスでの際に話す事や番協会でも取り上げて積極的に取り組んでいる		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を読み上げ、疑問に感じられた点はその場で解り易く説明している。特に利用料金や医療連携体制など、詳しく説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を月一回来てもらい、運営推進会議にも参加。入居者や家族の思いを聞いてもらい反映出来る様にしている 玄関に苦情箱を設置し不満の声があればすぐに対応出来る様にしている	家族の訪問時や運営推進会議で意見・要望等を聞きだす取り組みや意見箱の設置があり、寄せられた意見等を検証し運営に反映させられています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の全体カフェインス、各委員会カフェインス、毎朝の申し送り時に意見を聞くようにしている。 又、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心掛け気軽に意見が言える様にしている	毎月の会議で、運営に関する意見交換等がなされ、出された意見等は代表者に伝え、質の向上と運営に活かす機会とされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	委員会活動を自主性に任せ、得意分野での力が発揮出来る様にしている。夏・冬と自己評価を実施し評価に応じた報酬を出している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員が順番にテーマ、実施日を組み立て勉強会をしている。法人としての研修を定期的に行なっている。法人に来た研修や講習会の情報を貼り出し職員に伝えている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各分野の勉強会に参加 全国認知症グループホーム大会にて多数の事業所の発表を聞き、事例やサービス内容を参考にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態や本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられる関係を作る為細かく対応についてカンファレンスを実施している。又、気づきノートを活用情報を共有できるようにしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、家族様の不安や心配事を傾聴し家族様の苦勞を理解し十分な話し合いの中で安心を持って頂いている。又、センター方式の用紙を渡し、より理解を深め相談漏れのないように記入して頂いている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な入居者には自社にも他のサービスがあり、可能な限りその方のニーズにあった場を提供している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを共有し「教わる」という姿勢のもと一緒にお手伝いして頂いている。ご飯は同じテーブルで同じ食事を会話しながら摂っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係が悪く、面会が負担に感じておられる家族様に対しゆとりがある時の面会で大丈夫ですよと安心してもらい、本人にも頻繁に出来ない事をフォローし家族様と連携しながら進めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られた際には、気兼ねなくゆったりして頂ける様配慮している	馴染みの店での買い物支援や知人等の来訪時の適切な対応等による継続的な交流への取り組みがなされています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠かったり、発声が小さくてもコミュニケーションが取れる様にテーブルを近づけ入居者同士、皆が近くに座るよう配慮し、又馴染みの関係が構築出来る様職員が声かけしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた入居者の顔を見に行ったりしている。死亡退所された方の家族様が悪かったら使って下さいと連絡をくれたり、衣類を持って来てくれたりし話をしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりを大切にし、その中で言葉や表情等から希望、意向を汲み取るようにしている。気になる事は情報を共有し検討している。又、家族様からも情報を得る様にしている	日々の暮らしの中の言動等の観察による思い等の把握や家族の意向も聞き出す等の取り組みがなされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族様にセンター方式を記入して頂き今までの生活歴、暮らし方の把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを理解し、トイレ誘導や小休憩等を個別的に記録している。その人の出来る事に着目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なかなか施設に馴染めない入居者に対し施設内でもケアプランを重ね、権利擁護を利用していた方でもあるので社協や包括・市・前ケアマネ達と話し合いの場を持ち、その人らしさを見出しケア内容につなげている	介護計画は、「その人らしく暮らし続けるためのもの」との視点を大切にされ、関係者が相談し、定期的に検討・作成されています。なお、健康面等に変化が見られる時には、随時に見直しが行われています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の気づきやその人の生の言葉を個別に介護記録に記入している。又、気づきノートを作成し業務の前には必ずどちらも読んで情報を取り、状況の変化があれば見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族様の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	木原町の民生委員の方が時々、訪問され入居者の相談、話し相手をして下さる。又、木原町の自主防災にも参加し災害の際の協力体制を整えている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医にしてもらっている。馴染みのかかりつけ医には状況変化を細かく相談しており、かかりつけ医の判断の上、病院受診に同行している	入居時にかかりつけ医の受診について相談され、家族の協力の下に従前の医療機関で受診されています。その際には、暮らしの様子等を伝え適切な受診支援が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による内服管理で常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえる様にしている。又医療連携ノートで日常の気づきや情報を伝え個々の支援に繋げている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を提供し、頻りに職員が見舞うようしている。医師と話し合いの機会を持ち、事業所内医療関係とも相談・連携をはかり、事業所内での対応可能な段階で受け入れること説明している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の看取り指針を説明、本人や家族様の意向を踏まえ週末に対する対応指針を定め随時同意書にて確認しながら連携を図っている。民生委員の方が頻りに声をかけに来てくれ、生前の約束ですからと骨拾い・納骨と最期まで関わってくれる	終末期への対応は早くから関心を持たれ、関係者が相談され明確な方針の樹立と職員への周知・徹底が図られています。入居時には、家族等にもホームの方針を伝えられています。なお、看取りの実績も有しておられます。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回は全ての職員を対象に、緊急時マニュアルを用い勉強会の実施、又、AEDを配置し、蘇生法等の利用方法を実践的に研修している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、入居者と共に避難訓練を行っている。木原町の自主防災の研修にも職員が順番に参加。その内の一回は地域の協力のもと炊き出し祭も行なっている	定期的に消火・避難訓練が実施されており、被災時に備え地域住民の応援・協力体制の整備も図られています。また、災害に備えた飲料水等の必要最小物品の備蓄もなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に守秘義務の同意を取っている。ケアルスの中でも定期的に周知徹底し、日頃の関わりでも誇りやプライバシーを損ねない様に配慮している	「尊厳の尊重」が運営上の一つの柱である事を認識され、一人ひとりに合わせた話し方・語調に配慮した対応がなされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	待つと言う姿勢の中、聞かれた質問でゆっくり傾聴し本人の意思に沿うようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているがあくまでも個別ケアで、本人の意思を尊重し体調に合わせた1日を過ごしてもらっている。横になりたい時には休んでもらい、時には延食し、本人食事時間を摂ってもらっている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを決める際、どちらがいいですか?と選んでもらっている。朝の鏡の前に立ってもらい髪をとかす方にはくしを渡し、髪白くなるとおっしゃられたら毛染めをしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	対面式キッチンとなり、食事の支度の音や匂いを感じ食事時間を楽しみにされている。時には味見をしてもらったり入居者と一緒に同じテーブルで楽しく食事をしている	食に対する関心と意欲を高めるために、キッチンは対面式となり、入居者は能力に合わせて、食事の準備や後片付け等に協働される等楽しい食事環境への工夫がなされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を把握し、栄養が摂り難い方には食事形態を変えたり、ラコールを飲用、水分摂取少ない方には水分量をチェックしトミを利用したり、好みの物を飲用したりしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人口腔ケアを行なっている。自立の方も最終チェックはさせてもらい歯のない方も、うがい・スポンジ等でケアしている。夜間 義歯はポリドントにつけ、清潔を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、失禁が少ないように個々にトイレ誘導を行っている。昼と夜で対応を変えたり布パンツにパッドで対応している方など自立しやすい様に支援している	排泄パターンの掌握・記録と一人ひとりの様子の観察により、適宜トイレ誘導を行い、自立排泄への取り組みがなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックは必ず行い、訪問看護のほうでも定期的に個々に応じた対応をしてもらっている。普段から天然の寒天を使ったおやつやヨーグルト・果物の摂取、牛乳、ヤクルト等飲んでもらっている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調を見ながら身体の負担にならない様、時間帯も考慮し入浴して頂いている。場合によりシャワー浴や足浴を施行したり、本人の意向に沿って臨機応変に対応している	本人の体調等を勘案しながら希望に合わせた入浴支援が図られています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアのソファで横になられしばしの休息を取られたりしている。起床時間、就寝時間は個々に合わせ、夜寝れない方には手を握ったり一緒にお茶を飲んだり安心して眠れるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアカンファレンスで注意しなければならない薬についてや副作用の説明をしている。ファイル内に薬の処方箋があり職員が内容について把握できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事をお願いし、感謝の気持ちを伝えている。好きなおやつを自室でゆっくり食べたり、得意な貼り絵に集中されたりと自分だけの時間をもらっている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の気分に応じて散歩やドライブに出掛けている。お孫さんの結婚式の予定があり、その日にむけ体調を整え、家族様の支援のもと京都まで行って来られた	外気に触れる事による効果を理解され、天候や体調を見ながら、周辺の散歩や買い物等の外出機会が確保されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預り、事務所で管理しているが、買い物等本人の希望時は職員支援のもと手渡している。神社へ出掛けた時には個々にお賽銭を持ち、入れてもらっている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を出す為の支援を欠かさず行い、結婚式の招待状が届き 参加の返信ハガキを見てとても喜んでおられた		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面に季節の花を飾っている。イオンの空気清浄機を配置し、空気、臭いに配慮している。家庭的雰囲気を保ち置物装飾を工夫している。施設内は温度差が出ない様に気をつけ窓はレースのカテンで光を間接的に取り入れるようにしている	共用空間は、清掃が行き届き採光にも配慮され明るく、また、異臭も無く清潔感があります。季節の花が生けられ、入居者の作品による装飾等で居心地良く過ごせる場所の確保がなされています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	707 - 南側にTVを置き、テーブルと椅子を配置し、707-の真ん中に入居者のお気に入りのソファがあり2~3人座り団欒の場になっている。和室のこたつで昼寝されている一コマも見られる		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居者が今まで使っていたタンス、鏡台、テレビなどを持参されている。写真や好みの装飾品を置かれ、毎日、手に取って見ておられる	使い慣れた家具・調度品や好みの品が持ち込まれ、穏やかに過ごせる居室となっています。なお、各居室には、トイレ・洗面場が完備されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・70・廊下と手すりが着いており、自分の力で立ったり座ったり出来る補助になっている。居室の入口に写真の入った表札を掲げている。日めくりカレンダーをめくる事で日にちを確認している		